



# 麻布幼稚園だより

令和6年2月号  
港区立麻布幼稚園  
園長 酒井 正美

この冬は暖冬ということですが、冷え込む朝もありました。先日は園庭のビオトープの池に初めて氷が張りました。5歳児の子どもたちを中心に、手に持ったりバケツに集めたりと、氷との関わりを存分に楽しんでいました。

氷を入れたバケツに水を入れてみる、落としてしまった氷が割れるのを見て足で踏んでさらに粉々にしてみる、など自分の興味に合わせて関わっていました。中には、「家に持って帰りたから」と、ビニール袋に入れて部屋の前の靴箱の上に置いた子もいました。もちろん時間が経つと氷は…。



「人・物・こと」に関る中で、子供たちは直接の体験を積み重ねています。そこでは、驚きや楽しさ、不思議さを感じると同時に、音や感触といった感覚を伴いながら、物の特性に気づき自分なりに考えたり試したりする姿が見られます。自分が直接体験したこと、友達のしていることに関心をもち気付くこと、等がつながることで子供たちの中に経験として積み重ねられていきます。

図鑑や絵本、また小学校以降の学習の中で、「氷」が取り上げられたときに、頭で理解するだけでなく、「氷」について寒い朝の経験を伴って想像し理解できることは、深い学びにつながります。様々な事象を、友達や先生との温かな関わりの中で豊かに経験させていきたいと思います。

間もなく立春。梅の蕾が膨らんできたり、学級で育てている球根に花が咲いたり、幼稚園の園庭には小さな自然がいっぱいです。暖冬とはいえ、まだまだ寒い日が続きますが、春の訪れを子供たちと感じ、楽しんでいきたいと思えます。

幼稚園ではどの学年も「こども会」に向けての取組が始まっています。プレイルームからは、楽しそうな声や音楽が聞こえてきます。子供たちは日頃から、絵本の読み聞かせや紙芝居などに親しんでいます。物語には、話のおもしろさ、繰り返しのリズムや言葉のやり取りの楽しさなど、子供たちが大好きな要素が様々にあります。そのような楽しさと共に、体を動かして表現する楽しさが「劇遊び」にはあります。

話の流れに沿って動く楽しさ、友達と一緒に声や動きを揃える楽しさ、友達と相談しながらつくり上げていく楽しさ。学年によって楽しさの中身はそれぞれですが、学級や学年のみんなと一緒にすることが楽しいというのは共通です。

子供たちは、どのような表現をしても受け止めてもらえる安心感、認めてもらえる関係性があるからこそ、伸び伸びと表現をすることができます。感じたことや考えたことを、自分なりの言葉や動きで伸び伸びと表現することは、自己肯定感や自信につながります。

「かわいい」「楽しい」子供たちの劇遊びですが、保護者の皆様には劇遊びの一員である観客としてご参加いただき、お子さんや学級の子供たちの育ちにも目を向けながら、温かい目や拍手で、応援していただきますようお願いいたします。